

学習指導要領の「内容」の(2)アの「人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたこと」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として扱っており、不適切である。

ワールド・World challenger 発展 チャレンジャー

世界の古代文明と大陸の影響

世界にはエジプトのピラミッドのような遺跡が各地に残っています。
ペルーには、世界最大のなぞといわれるナスカの地上絵や、三方が深さ1000mの断崖絶壁に囲まれたアンデス山上のマチュ・ピチュがあります。
またイギリスにも、ストーンヘンジという古代の巨石遺跡があります。
インカの人々は太陽と天の星(星座)を崇拝しましたが、エジプトでも太陽を崇拝し、太陽暦がつくられました。ストーンヘンジも太陽や月、星の位置を知る暦のようなものとする説もあり、古代の人々には共通する意味が太陽や星などにこめられていたようです。



ストーンヘンジ (イギリス)

一般的な説として、1年のさまざまな時期の太陽や月、星の位置を計算するための暦のようなものと考えられています。なぞ、夏至にはヒールストーンと呼ばれる石の方向から日がのぼり、中央の祭壇のような石を照らします。

エジプト文明(紀元前3000年ごろから)

古代エジプト人は、オリオン座をオシリス神の住む星としてうやまっていた。この三つ星がピラミッドの地上の星で、ナイル川は、地上の天の川にあたると考えられていた。



ギザのピラミッド (エジプト)



マチュ・ピチュ (ペルー)

太陽をつなぐ柱

インティワタ(太陽をつなぐ柱)は、高さ約10mの石の柱で、ペルーに点在する。角柱がたっており、おそく天文と関係のある構造で、太陽暦の儀式で使用された日時計のようなものかもしれません。



キトラ古墳 (奈良県)

キトラ古墳の天井の中央にえがかれているのは、北極、北斗七星を中心としたオリオンなどです。



ナスカの地上絵 (ペルー)

地上絵は、上空からみると約500kmにわたって何百もの大きな絵や数字の線が広がっています。この大きなクモはオリオン座を模したもので、周囲の線は軌跡をあらわしています。現在では、天文とかかわる儀式用のものだったと考えられており、その絵の多くは紀元350年ごろのものか、もっと古い可能性もあります。

学習指導要領の「内容」の(2)アの「人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたこと」に示す内容を学習指導要領に示していない内容として扱っており、不適切である。

(発展的な学習内容ではなく、本文の学習として扱うように改訂しました。)

ワールド・World challenger 発展 チャレンジャー

世界の古代遺跡のなぞ

世界各地でおこった古代文明には、エジプトのピラミッドのように、太陽や星(星座)など、天文とかかわりのある遺跡が多く見られます。今から約5000年前、アフリカの古代エジプトでは太陽神が崇拝され、太陽暦がつくられましたが、約5000年前に栄えた南アメリカのインカ帝国でも太陽が崇拝され、国王は太陽の化身とされました。時や空間をこえて、古代の人々にとって共通する意味が、太陽や星にはこめられていたようです。



ギザのピラミッド

「紀元前2500年ごろ エジプト」
古代エジプト人は、オリオン座をオシリス神の住む星としてうやまっていました。この三つ星の地上の星がピラミッドで、ナイル川が、地上の天の川にあたると考えられていた。

ストーンヘンジ

「紀元前2500年ごろ イギリス」
「雷つりの石」を意味する巨石群は、一般的な説として、1年のさまざまな時期の太陽や月、星の位置を計算するための暦のようなものと考えられています。夏至には、ヒールストーンと呼ばれる石の方向から日がのぼり、中央の祭壇のような石を照らします。



キトラ古墳

「7世紀末〜8世紀初めごろ 日本」
奈良県明日香村にある円墳で、内部の天井には、北極星や北斗七星を中心に、星座(オリオン座)など古代中国の星座がえがかれています。星をあらわす点が星群でつながれており、東アジア最古の天文図ともいわれています。



ナスカの地上絵

「4世紀〜6世紀ごろ ペルー」
世界最大のなぞともいわれる地上絵は、上空からみると、動物などの大きな絵や数字の線が広がっています。この大きなクモは、オリオン座を模したもので、周囲の線は天体の軌跡をあらわし、天文とかかわる儀式に用いられたのではないかと考えられていますが、くわしいことはまだわかっていません。



マチュ・ピチュ

「15世紀ごろ ペルー」
「古い城」を意味するインカ帝国の遺跡は、20世紀初めになって発見されました。三方が深さ1000mもの断崖絶壁に囲まれた山の頂上にあり、「空中都市」とよばれています。多くはなぞに包まれています。また、遺跡の最も高い地点に立つインティワタナ(太陽をつなぐ柱)は、大石をけずってつくられています。上部につき出た角柱の四つの角は、東南西北をさしており、天文観測や太陽暦の儀式に用いられた日時計と考えられています。



ほかにも、どんな遺跡があるか探してみよう。



番号12の関連修正、もくじ

(番号12の修正に合わせて、もくじを修正しました。)

ワールド・チャレンジャー 発展

世界の古代文明と大陸の影響	36
資料読解をめぐる人々	62
大陸を横断する鉄道 海洋をつなぐ運河	142

ワールド・チャレンジャー 発展

世界の古代遺跡のなぞ